

## 令和 3 年度 第 1 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取湖陵高等学校  
校長 上原 正樹

評 価 日	令和 3 年 6 月 1 5 日 (火)	
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等	
<p>1. 前年度の最終評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul> <p>2. 前年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「スマート農業」は学校の特色を活かす取組としてもっと推進してほしい。人材育成の取組であり、総合選択制高校としての学科を越えた取組でもある。今後は鳥取大学とのコラボ（講師派遣等）も可能である。</li> <li>・YouTube 湖陵チャンネルについて、コロナ関連は充実しているが、学科内容については不十分。全学科の最新の活動内容をタイムリーに掲載してほしい。</li> <li>・以前勤務していた湖山小学校では、パソコン教室（情報科学科）や花植え（緑地デザイン科）等で湖陵高校にはお世話になった。子どもたちも大変喜んでいて、高校の高い専門性で助けていただきありがたかった。</li> </ul> <p>3. 今年度の評価計画について</p> <p>(1) 目標設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育方針にある「見られる自分」は、キャリア教育でも重要。自己理解や正しく自分を認識すること、自分を客観視することなどができない子どもが増えている。世間に通用する力（メタ認知）が大事と考える。</li> <li>・教育目標の「…地域産業を担う専門人材を育てる…」とあるが、現在の仕事が今後半減すると言われている中、社会の変化に高校教育としてどう対応していくのか。</li> </ul> <p>(2) 目標達成のための取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点目標に「自分の命を守る意識の醸成」とあるが、若い世代の自死者が増加している昨今、先を読める行動が求められる。しかし、実際は自分自身の行動がわからない子どもが少なくない。子どもにチャレンジさせることも大事だが、失敗した時はどうフォローするのか。</li> <li>・ICT活用先進校として、GIGA スクール構想についてどう考えているのか。ワークスペース等ツールが変わってきている。今後はGoogleに移行していくのか。</li> </ul> <p>(3) 評価基準及び評価指標について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul> <p>4. 学校運営や予算に関する提言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校独自で募集定員を決められないのか。人気のある学科は</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートしたばかりの事業だが今後も発展的に取り組み、これ以外にも学科連携事業を増やしていきたい。</li> <li>・湖陵チャンネルについては学校HPと併行して推進し、学校のPRをしていく。</li> <li>・今後も小中学校を含めた地域連携事業は積極的に取り組み、地域への専門高校の理解を深めていく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校でも社会や時代に適応した教育を推進するため、実践力向上やふるさと交流等に主眼を置いた事業に着手し、確実に成果を出してきている。</li> <li>・危機管理については、日頃から避難訓練や事故防止等の取組をして、生徒自身の安全意識の向上に努めている。心のケアについては、SCやSSW、特別支援教育支援員等でも対応。</li> <li>・令和4年度入学生から全員に端末を持たせるが、情報学科のiPadは止め、全ての学科でchromebookの予定。職員会議等は会議システムmeetを積極的に利用。今後はリモート授業等対応でき</li> </ul>	

<p>増員するなど学校の裁量で変えられたら定員割れの改善につながるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>各教室に消毒液の設置や換気対策（サーキュレーター等）もされていて良かった。</li><li>中学校としては、打たれ強い子をつくりたい。レジリエンスを身につけさせたい。集団にいることに居心地の悪さを感じる子がいる。飛び交う言葉が自分に刺さるようで、いつ自分に向けられるかビクビクしている子がいる。そういう子は能力（感性・アンテナ）が高く生きづらい子。適度に無視する（聞き流す）力が必要。そういう力を中学校の段階で身につけさせたい。小学校や地域と繋がりを大事にしていきたい。</li><li>食べることはトピックス（話題）になりやすいが、工業（機械・電気）等はトピックスになりにくい。発信が重要。中学生は目の前のことしか見えない、先が見えない子が多い。高校卒業後の姿をどう見させる（イメージさせる）のかが今後の課題。卒業生がどう地域に貢献しているのか見せることが大事。</li></ul>	<p>るようシステムを構築していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>高校としても打たれ弱い子を打たれ強い子に成長させたい。目標を高めに掲げて、生徒が打たれながらも頑張れるよう取り組んでいく。生徒のレジリエンスを高めたい。</li><li>先般の20周年記念式典で卒業生5名が講演し、後輩に向けてエールを送ってくれた。令和2年度卒業生は、進学も含めて地元に残った生徒が約100名。その生徒たちが、地域に貢献してくれることを期待している。</li></ul>
---	--